

令和3年度 自己評価公表シート

幼保連携型こども園 たでいけ認定こども園

1. 園の教育・保育目標

- ① 十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満ち、生命の保持及び情緒の安定を図る。
- ② 表現しきれぬ体力・気力を育てる。
- ③ 自然の中で美しさやすばらしさや不思議さに感動したり心を動かしたりする感性を育てる。
- ④ 自然のサイクルの実感や自然に生かされている感覚を育てる。
- ⑤ 日本の伝統や文化に触れ、大切にすることを育てる。
- ⑥ 感動したものを表現する心を育てる。
- ⑦ 自分で考え、あるいは、自分たちで考え話し合っ、生活を創っていく力を付ける。
- ⑧ 他を応援する、年下の子のために仕事をする子を育てる。
- ⑨ 「ありがとう」の気持ちを育てる。
- ⑩ 保護者の方々と共に子どもたちを育てたい。

2. 重点的に取り組む目標・計画

たでいけ認定こども園は平成28年4月から、地域の就学前教育・保育を担う幼保連携型認定こども園として出発した。教育・保育の目標、及びねらいや内容は、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を踏まえ、また、たでいけ認定こども園で培ってきた「保育方針」を基幹としながら、質の高い、充実した教育・保育を行うことを目標にしている。

保育教諭らと新しい園生活に期待をもち、主体的に活動に参加しながら、能動的に生活する中で、保護者は子どもの成長に気づき、子育ての喜びを実感できるような保育を計画的、且つ系統的に実施していきたいと考えている。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況	自己評価
保育計画	園の教育・保育目標を踏まえ、全体的な計画を作成している。	全体的な計画は、園長を中心に作成に取り組み、認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえた上で、園の保育目標の達成を目指している。	A
	指導計画は各年齢の発達に応じたねらいと内容を設定している。	月指導計画は認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえた上で、園で重視する保育内容を、各月のテーマとねらいに基づいて記載している。また、週指導計画は月指導計画を基にしながら、より具体的に活動内容を環境等に配慮して記入している。	A
	保育の実施状況を反省したり、評価したりして、適宜改善を図っている。	各指導計画は実施後には必ず評価・反省をし、必要に応じて修正・改善するようにしている。	A

教 育 内 容	生きていく基礎としての体力、気力が育っている。	毎日の運動により、全身を巧みに使って集中を切らさず、意欲的に遊ぶことができる子が多い。また、大きな怪我等も少ない。	B
	自然の中で感性が育っている。	園外保育で季節感のある場へ出向き、原体験を通して豊かな食体験を通じて自然のサイクルや生かされている感覚を実感している。	B
	日本の伝統文化や、それらを大切にすることが育っている。	五節句や伝統行事に興味・関心を持ち、由来を知ることができている。	B
	感動したことを表現する心が育っている。	季節感を大切に歌や感動体験に基づく描画活動を通して、感じたことや伝えたいことを豊かに表現することができている。	B
	学びに向かう力、生活を創っていく力が育っている。	日々の生活の中に年齢に沿った当番活動やお手伝いを取り入れることで、主体的に園生活を送ることができている。	B
	他を応援する、年下の子への思いやりの気持ちが育っている。	生活の中の色々な場面で、年下の子に優しく接してあげたり、友達を一生懸命応援したりする場面がよく見られている。	A
	「ありがとう」の気持ちが育っている。	地域の方に何かを教えてもらったり、やさしくしてもらったりした時に、自分の気持ちを素直な言葉でお礼を言うことができている。	B
健 康 ・ 安 全	園内における感染症予防策を講じている。	日々の手洗いの励行は勿論、園内で感染症が確認された場合は、看護師を中心に速やかに掲示板等で情報開示し、拡大防止に努めている。	A
	安心・安全な環境に配慮している。	年に1回以上不審者対応訓練を行っている。また、火災を想定した避難訓練も毎月実施し、地震や河川の氾濫などの非常災害訓練も適宜実施している。	A
食 育 の 推 進	生活や遊びの中で、意欲的に食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合うことができている。	年間を通して栽培物や旬の野菜を使った調理実践を取り入れ、食に関わる体験の場を確保している。	A
	食材や食の循環、環境への意識、調理した人への感謝の気持ちが育っている。	給食の時に栄養士や調理師が各保育室を回って食材の特徴や栄養について園児に話をしている。	B
	食物アレルギー児への対応など、個々に応じたきめ細やかな対応ができている。	栄養士と看護師と担任がガイドラインに基づいて慎重に対応している。また、給食の提供時は再三確認を行い、事故防止に努めている。	A
保 護 者 ・ 小 学 校 ・ 地 域 連 携	園での方針・教育内容を保護者に適切に伝えている。	入園説明会や講演会、行事日等に保護者に対して園の教育・保育方針を伝えるようにしている。また、事後アンケートも実施している。	B
	保護者からの相談、連絡について職員は適切に伝えている。	園で苦情受付担当者・解決責任者を選定し、園内の見える場所に掲示して対応している。また、日常的に保護者からの相談や連絡は適宜受け付けている。	A
	小学校との交流を積極的に行っている。	2年生・5年生との小学校生活を見据えた1年間を通じた計画的な交流が行われている。また年度末には保育教諭と小学校教諭による反省会も実施している。	A
	園は地域での催しに積極的に参加し、交流を図っている。	毎年夏に地域のコンサート（星空サマーコンサート）に年長児と職員が出演し、地域の方に大好きな歌を聴いてもらっている。	A
自己評価ランク：自己評価はA～Dの基準に基づいて評価する。 A：良好（十分達成できている） B：概ね良好（達成されている） C：不十分（成果が十分ではない） D：要改善（取組が不十分である）			

4. 総合的な評価

園児が園生活に慣れ、新しい友達や先生の存在に気づき、出会いを喜び合うことができるように、職員全員で保育を一から見直し、計画・実施してきた。園児は、当初予想していたよりも遥かにスムーズに新しい園生活にも慣れ、すぐに園内の至る所で1・2号認定児が混ざり合っ楽しそうに遊ぶ姿が見られるようになった。活動全体を通じて、園児一人一人の心と体、自立心、協同性、道徳性、規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わり、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、言葉による伝え合い豊かな感性と表現などに確かな育ちが見られたと思う。

また、3号認定児も大きいクラスの子どもの姿に影響を受け、安定感に生活を送る中で、全身を使って遊びを楽しみ、身近な人と関わる心地よさを感じながら、それを身振りや言葉で伝えようとする姿が多く見られている。以上のことから、今年度の目標は概ね達成されたと考える。

コロナ禍の中感染防止に最大限に努めたため単発的には発生したが大規模に感染が増えることなく最小限に食い止めることができた。

今後は、職員一人一人がより適切な自己評価に取り組み、園の課題を明らかにして、その解決を図りながら、継続的にこども園の教育・保育の質の向上に取り組んでいきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
指導計画の見直し	・月指導計画との関連を重視した週指導計画の改定を行う。
専門性の向上	・栄養士はこれまで以上に保育教諭と密に連携を図り、専門性を発揮して食材の特徴や栄養、産地等について園児に情報提供を行い、園児の食材や環境に関する興味、関心を高める。
情報公開の方法	・実態に沿うようにホームページの刷新を行う。 ・配布物の配布時期を見直すなどして、全ての保護者に迅速な連絡を徹底する。